【緊急企画】

ラーシュ・ヴァリエ・在韓国スウェーデン大使夫妻インタビュー

ヴァリエ・在韓国スウェーデン大使とエーバ夫人

６月25日(土)午後1時30分から東海大学札幌キャンパス・マルチメディアホールで、９月1日から駐日スウェーデン大使として着任される在ソウル・スウェーデン大使のラーシュ・ヴァリエ博士とエーバ・ヴァリエ夫人をゲストに迎え、東海大学学生とヨーテボリ大学(スウェーデン)、祥明大学(韓国)からの留学生が市民と一緒に様々な問題についてディスカッションが行なわれました。

ヴァリエ大使ご夫妻に、川崎一彦東海大学教授(当財団評議員)がお聞きしました。

ヴァリエ・在韓国スウェーデン大使ご夫妻にインタビューをする川崎教授(右端)

Q：ヴァリエ大使は日本語が私よりもお上手ですね。

A：勉強しましたからね。（笑い）1970年から72年までストックホルム大学で学び、その後京都大学で３年ほど勉強して、スウェーデン大使館のいろんな仕事で、合わせて日本には16年ほどいました。

Q：ストックホルム大学では「日本学」の博士号をお持ちなのですが、どんな勉強をされたのですか。

A：まずは中国語と「中国学」を勉強し、それから日本の歴史を勉強し、京都大学では日本の古代史(国史学)を学びました。主に歴史に興味がありました。

Q：ソウルのスウェーデン大使を５年間お勤めになって、今年９月から東京の日本大使におなりになるということですが、ソウルの５年間の印象をお聞かせください。

A：韓国は非常に積極的な社会です。ポジティブな社会で、将来のために何でも出来るという雰囲気ですから、力のあるエネルギッシュな社会であるという印象が一番強いですね。そして日本人以上に韓国人は大使に対して丁寧で仕事はしやすいです。

Q：日本とは対照的な、だいぶ違う感じですね。

A：そうですね。違うところも、似てるところもあります。一番違うところは、韓国は「パリパリ(早く早く…)」、日本は「少し考えてから…」という感じでしょうか。

（中　略）

Q：1995年だったと思いますが、この場所でスウェーデンについてお話していただいた事があり、スウェーデンの外務省に入ったのは日本の大使になりたいからとお話されましたが、何か優先的に大切だと思われる事があれば教えてください。

A：どこの国でもそうですが、２国間の関係をもっと強くしたいです。そして少し日本語を使って、スウェーデン人と日本人が親しくなって、いろんな場面でいろんなことをやりたいと思います。地理的にはかなり遠く離れているのですが、考え方はかなり近いと思います。スウェーデン人は「ヨーロッパの日本人」とよく言われます。やはり似てるところがあるからでしょうか。

（中　略）

Q：日本の学生と韓国の学生の印象について違いはありますか。

A：みんないい印象ですが、日本と韓国の学生を比べても別に違いはないと思いました。韓国語だということがわからなかったら、多分日本の学生だと思ったでしょう。日本の学生も韓国語で話してもおかしくないし、将来に対する見方や態度が同じだと思います。面白いのは、一番近い国は中国だと韓国の学生が言い、日本の学生は韓国だと言った事です。またスウェーデンの学生は将来への不安がないといった事も印象的でした。

Q：９月からの大使のご活躍に期待しているのですが、日本の経済力が下降気味であり、それに対して中国、韓国が上昇している。今日本においてどの分野が大切だと思われますか。経済の分野ももちろんですが、文化の面も大切だと思うんです。文化とか学術交流とかアカデミックな分野での交流について、これまで以上に大切になると思うのですが、どんなお考えをお持ちですか。

A：僕もそう思います。日本の経済がどこに行くか分からないのですが、日本社会は非常に成熟している社会だと思います。スウェーデンもそうですけれど、成熟している社会同士の文化の交流が出来れば、お互いに分かりやすいと思います。ですから文化交流が非常に大切だと思います。お互いに文化も成熟しているから、大変分かりやすいところが一杯あると思います。お互いの考え方が分かるとなんでも出来ると思います。経済的にも同じ問題もあるし、高齢社会もスウェーデンでも日本でも大きな問題ですが、それ自体は別に悪い事ではないと思います。

Q：大使は５年間韓国におられて、普段はあまり日本語を使われていなかったのでしょう。

A：そうです。

Q：よく忘れないものですね。（笑い）

A：でも韓国人でも歳を取っている人は、かなり日本語が出来ますので、日本語を話すこともありました。

Q：エーバさんが日本で関心のある事は、どんなことですか。

A：1994年に札幌で展覧会(織物)をしました(※)。紙で作られた織物(紙布)に関心があります。韓国でもハンジ(韓紙)と言って同じように紙の織物があります。

Q：エーバさんは、ソウルの生活も良かったようですが、東京で何か楽しみにされてる事とかありますか。

A：日本には11年間住んでいましたので、故郷に戻ってきたようです。（笑い）

※1994年11月2日～20日、当財団センターホールにおいてもメッタ・ヴァールクヴィスト・スウェーデン大使夫人の収蔵織物の展示と合わせて織物展を行い、多くの見学者が訪れました。